



広報

なは

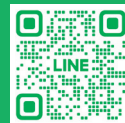
2024年(令和6年)
第880号 毎月1日発行

5月

市民の友

発行：那覇市 〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号 ☎(代表)867-0111 印刷：株式会社池宮商会 配布：那覇市シルバー人材センター

LINE友だち登録で
市からのお知らせが届く!



友だち登録は
こちらから▲



LIGHTRAIL

特集

TRANSIT

LRT

20年後、
どんな暮らしを
したいですか？



20年後の未来に向けて

鉄軌道網の発達していない沖縄は、自家用車保有率の高い車社会です。重い荷物の運搬や、買い物に行く手段としても、車は便利なツールですが、社会の超高齢化が進む中、車に頼り過ぎずに生活できる環境の整備が急務となっています。公共交通の利便性を高めることが、人々の健康で安心な暮らしを支え、交流を促し、活気あふれるまちづくりにつながります。

本市では、誰もが移動しやすいまちを実現するべく、LRT(次世代型路面電車)の導入に向けた取り組みが動き始めています。

整備が進んだ20年後、街なかには、LRTが颯爽と走り、バスやモノレールともスムーズにつながります。沿線には高層ビルや個性あふれる店

舗が立ち並び、行き交う市民や観光客などで賑わっていることでしょう。

夢がふくらむ那覇市の快適な未来、一緒に描きませんか？



那覇市長 知念 寛

那覇市の人口と世帯
※()内はうち外国人
2024(令和6)年3月末現在

● 総人口 313,463人(6,516人)
男 151,653人(3,325人) 女 161,810人(3,191人)
● 世帯数 159,284世帯 (4,515世帯)
住民基本台帳人口の内訳(外国人)



Catalog Pocket

カタポケ iPhone / Android

無料
Free App



You can read this city newsletter in 10 languages.

FOREIGN
RESIDENTS
PORTAL



#なはとぴ

あなたが
見つけた

なは

募集中!



う ち な - ぐ ち
や
あ じ く - た い

沖縄県沖縄語普及協議会 監修

【沖縄の肝心】

う や や
親 寄 し 子 寄 し

【意味】家庭を築くには親子とも心を寄せ合うこと

LIGHTRAIL

特集

TRANSIT

20年後、どんな生活をしたいですか？

どんな未来を想像しますか？



問 都市計画課 ☎ 951-3246

車社会の沖縄ですが、自動車をずっと運転し続けられるわけではありません。では車を手放したときにどんな生活になるのか、あなたは想像したことはありませんか？

現在、タクシーやバスなどの公共交通は運転手不足により、最終便の繰り上げなどの減便が行われています。公共交通が衰退すると、車の運転が難しい人たちは外に出る機会が減っていきます。外出機会が減少すると、健康への悪影響や生活の質の低下につながる要因になります。消費活動も減少し、地域経済の面でも好ましくありません。

公共交通の重要性

公共交通がメインの移動手段となる高齢者は今後増える一方です。現在車を運転していても、身体や認知機能の衰えなどから免許返納をする人も増えていくでしょう。公共交通は昔も今も未来も、子供や学生、高齢者などの暮らしを支える、大切な移動手段です。

公共交通は、移動手段であると同時に、まちづくりや健康、福祉、観光等の様々な分野に関わる、地域の活性化を支える不可欠な基盤です。また、「乗らなければ無くなる」という側面もあります。残していくためには利用することが大切で、公共交通を利用する生活スタイルへの転換も必要です。

未来に向けて

ライトレールトランジット(次世代型路面電車)は、走行時の騒音や振動が少なく、乗り心地が良い、二酸化炭素を排出しない交通システムです。建設コストを抑え早期開業できること、輸送効率の高さから、各地で導入に向け取り組みが進んでいます。

本市でも導入に向け、みなさまのご意見を踏まえながら令和8年度までに計画を策定したいと考えています。策定後、手続きを経て着工し、開業まで最短でも15年を要するでしょう。そのとき、どんな未来を想像しますか？



電車や鉄道のある暮らし



電車のシートに腰掛け談笑する婦人たち
カラー画像:株式会社あしびっとワークス提供
画像:那覇市立歴史博物館所蔵



与那原線の 終点でした



AR体験も!

軽便与那原駅舎 展示資料館
住所: 島尻郡与那原町字与那原3148-1
☎ 835-8888 入館料100円

1914年(大正3年)、5月3日に那覇と首里をつなぐ路面電車が開業しました。写真はその車内の様子です。同じ年の12月1日には、軽便鉄道が開業。48キロにわたって敷設された軽便鉄道は、戦争で破壊されるまで沖縄の人々の生活を支えていました。商業の中心であった東町市場に隣接していた那覇駅を起点駅として、与那原線、糸満線、嘉手納線がありました。古波蔵駅が嘉手納方面、国場駅が糸満方面への乗り換え駅となっており賑わっていました。

与那原駅舎は、戦火の中その形をわずかに残し、建物は補修を重ねて、消防署や町役場として街に溶け込んでいました。写真資料や聞き取り調査をもとに当時の姿を復元した軽便与那原駅は、展示資料館として当時の生活を生き生きと伝えています。

LRT

Q & A 教えて!!

Q1 LRTを導入しないと
いけないの?
今のままではだめなの?

人口が減少し、少子化と超高齢化が同時に進行する社会で、持続的に発展できるようなまちづくりが求められるなか、公共交通を充実させることで、「誰もが移動しやすいまち」を実現させたいと考えています。LRTを導入し、バスやタクシー、モノレールとも連携した交通網を形成することで、人々の移動をスムーズにし、住みよいまちづくりを進めていきます。

Q2 LRTの具体的な
計画は決まったの?

現在の那覇市LRT整備計画素案は関係機関(道路管理者、警察、路線バス事業者等)との協議を行うために那覇市の考え方を取りまとめたものであり、決定したものではありません。今後、LRT導入に向けて関係機関との協議を行い、令和8年度のLRT整備計画策定を目指しています。



Q3

なぜ真和志地域に
LRTを導入するの?

真和志地域は高低差のある地形や狭い道路が多く存在し、戦後、道路などの基盤が整わないまま市街化が進みました。起伏に富んだ地形もあり、公共交通の不便な地域もあります。定時性と速達性に優れるLRTを導入し、路線バスやタクシーなどの既存の公共交通と連携することで、公共交通の不便さを解消し、誰もが移動しやすいまちを実現していきたいと考えています。東西方向の公共交通軸を形成すること、まちの再整備の促進等の観点から真和志地域にLRT導入を位置づけています。

Q4

LRTを導入したら
渋滞が悪化するのでは?

LRT導入により、自動車の通行帯が4車線から2車線に減少するため、LRT導入路線および周辺道路の自動車交通に影響が出ることが想定されます。

そのため、LRT導入に合わせてクルマから公共交通の利用に転換を図る施策を行い、区域内に流入する車の総量を減らすよう取り組みます。自動車交通から公共交通への利用転換が進むことにより、自動車交通の適正化が図られ、渋滞の緩和が期待できます。

多くの意見お待ちしています

「那覇市LRT整備計画素案に対する市民意見を募集します。素案は那覇市ホームページのほか都市計画課窓口(9階)・市政情報センター1階、各支所市民協働プラザで確認できます。

【対象者】市民および市内に通勤・通学する周辺市町村の住民

【期間】令和6年5月1日～5月31日

【提出方法】直接提出

(都市計画課窓口)
郵送、FAX、メール



開業

工事

許認可
法手続き関係機関
協議

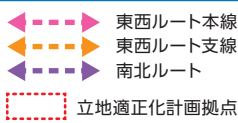
計画

2040年度目標

	概算建設費	需要予測	単年度収支	B/C (30年)
東西ルートのみ	320億円	15,100人/日	+2.3億円	1.01
全線	480億円	21,900人/日	+1.5億円	1.15

数値は先進地事例やパーソントリップ調査結果等に基づき試算したものです。
LRT整備計画策定にあたり、令和8年度に最新値で算定予定です。
B/C(費用便益分析)は1.0以上が事業化の目安です。

いまここ！

開業までの
道のり

東西ルート本線

および支線を先行して
整備する予定です。

東西ルート本線 県庁北口～県立南部医療センター付近

東西ルート支線 県庁北口～若狭海浜公園付近

南北ルート 真玉橋付近～新都心

時刻表
停留場 発車時間

時刻	平日	下り
6	10 20 30 40	
7	03 09 15 21 27 33 39 45 51 57	
8	04 10 16 22 28 34 40 46 52 58	
9	05 15 25 35 45 55	
10	6 15 25 35 45 55	
11	7 15 25 35 45 55	
12	8 15 25 35 45 55	
13	9 15 25 35 45 55	
14	10 15 25 35 45 55	
15	11 15 25 35 45 55	
16	12 15 25 35 45 55	
17	03 09 15 21 27 33 39 45 51 57	
18	04 10 16 22 28 34 40 46 52 58	
19	13 15 25 35 45 55	
20	13 15 25 35 45 55	
21	13 15 25 35 45 55	
22	10 20 30 40	
23	10 20 30 40	
24	10 20 30 40	

ピーク時は6分に1本
オフピーク時は10分に1本走ります横断歩道から
乗り場にアクセス

クルマに依存した都市の構造は、交通渋滞を助長し都市の活力を低下させています。本市においても、中心部の人口減少や少子高齢化の進行など、今後の都市の活力の維持が懸念される状況にあります。国立人口問題研究所によると2020年時点で317,625人だった市の総人口は、2050年時点で280,108人になり、2020年時点で11.5%だった人口における75歳以上の割合は、2050年には21%になると推計されています。社会の超高齢化が進む中で、自家用車がなくても生活できる環境の整備が急務となっています。

クルマ社会について

クルマに依存した都市の構造は、交通渋滞を助長し都市の活力を低下させています。本市においても、中心部の人口減少や少子高齢化の進行など、今後の都市の活力の維持が懸念される状況にあります。国立人口問題研究所によると2020年時点で317,625人だった市の総人口は、2050年時点で280,108人になり、2020年時点で11.5%だった人口における75歳以上の割合は、2050年には21%になると推計されています。社会の超高齢化が進む中で、自家用車がなくても生活できる環境の整備が急務となっています。

LRTが走る沿線付近では、人通りが増えることで駐車場や空き地だったところに商店や飲食店ができるなど、地域特性を活かしたまちづくりが可能になります。また、環境、福祉、観光といった様々な場面でのまちづくりへの効果が期待されます。LRTは人に優しく、高齢者や子ども達といった車を持たない人々の外出機会を増やし、公共交通を利用する場面が増えることで、健康増進にもつながります。

LRT導入の効果

市では、第5次那覇市総合計画において「誰もが移動しやすいまちをつくる」ことを掲げ、過度にクルマに頼りすぎず公共交通や徒歩・自転車などで、まちのどこへでも快適に移動できるまちを目指しています。また、なかに入る自動車量を減らしながら公共交通をさらに便利にすることで、「人を中心としたまち」「誰もが移動しやすいまち」をつくるために次世代型路面電車LRTをまちづくりを支える重要な公共交通と位置付け、導入に向けた検討を進めています。LRTは、中心市街地・真和志・新都心の3つの拠点を結び、バスやタクシー、モノレールと連携することで、人々の移動をスムーズにし、環境や人にやさしく、住みよいまちづくりへの効果が期待できます。

LRT導入の必要性

車内の様子



芳賀・宇都宮LRT・・・愛称はライトライン。栃木県宇都宮市および芳賀町に全線が新たに一から敷設され、2023年8月より運行を開始。



トラムヴァイ(イスタンブール)・・・1992年に開通し、現在5路線が運行中。今後も路線拡大が予定されている。旧式の車両デザインを採用している路線も。



高雄ライトレール(台湾)・・・2015年に開業後、延伸を繰り返し2023年に環状線が完成。全線架線レスは世界初の取り組み。全38駅の全長22.1キロ。

各地で活躍中！